

建設リサイクル報告様式  
エラーチェックツール利用方法・エラー解説書

(令和対応版)

令和元年 9 月

# 目次

はじめに .....	1
第1章 エラーチェックツール利用方法 .....	1
第2章 エラー解説 .....	3
1. エラーの種類 .....	3
2. エラーの確認方法 .....	3
(1) 一覧の確認 .....	3
(2) 詳細の確認 .....	4
(3) 建設リサイクル報告様式の確認・修正の際の注意事項 .....	5
3. エラー内容 .....	6
(1) 空白 (必須) .....	6
(2) 数値 (必須) .....	7
(4) コード (必須) .....	8
(5) 工事種別 (警告：内容確認) .....	9
(6) 不一致 (必須) .....	10
(6) 2 発注機関・工事場所不一致 (警告：コード確認) .....	11
(7) 大小関係 (必須) .....	13
(9) レンジオーバー (警告：数値確認) .....	14
(12) 原単位 (警告：数値確認) .....	15
(13) 解体以外 (警告：内容確認) .....	17
(14) 距離オーバー (警告：内容確認) .....	18
(15) 隣県 (警告：内容確認) .....	19
(16) 値不一致 (必須) .....	21
(17) 工事種別・構造 (警告：コード確認) .....	22
(18) 品目・供給元 (警告：供給元確認) .....	23
(18) 2 品目・搬出先 (必須) .....	25
(19) 現場内利用不整合 (警告：内容確認) .....	26
(22) 新材 (必須) .....	28
(24) 法人番号 .....	29
(30) 再生資源利用率 (警告：内容確認) .....	30
(31) 再生資源利用促進率 (警告：内容確認) .....	31

## はじめに

過年度において、建設リサイクル報告様式への記入間違い、選択間違いが多く発生しています。これらの間違いをなくし、データの精度を向上するためには、チェックすることが必要です。

本書は、「建設リサイクル報告様式」にご記入いただいたデータをチェックするツールの利用方法と出力されたエラーについて解説しています。

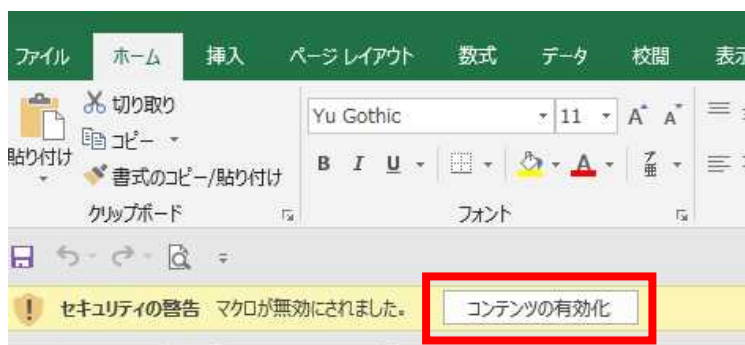
「建設リサイクル報告様式」に記入した元請業者及び発注者が、本チェックツールを実行し、エラーの確認及び必要に応じて修正をしてください。

提出時には、必須エラーはなくし、警告エラーは確認し必要に応じて修正したうえで、提出くださいますようお願い致します。

## 第1章 エラーチェックツール利用方法

### 1. エラーチェックツールを開く

入手した「利用量搬出先エラーチェックツール.xlsm」を開きます。



セキュリティ警告が出力された場合は、「コンテンツの有効化」をクリックします。

### 2. エラーチェック対象フォルダを選択

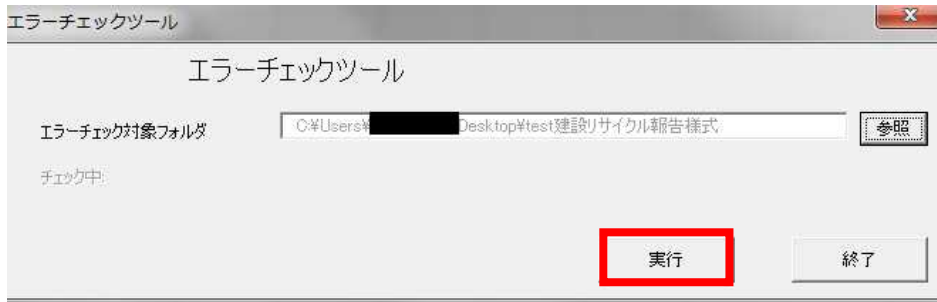
「建設リサイクル報告様式」で作成したエクセルファイルが保存されているフォルダを選択します。

対象となるフォルダは、右にある「参照」ボタンをクリックし、選択します。

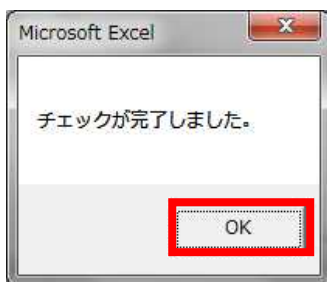


### 3. 実行ボタンをクリック

フォルダを選択したのち、実行ボタンをクリックします。



### 4. チェック完了の「OK」クリック



### 5. 結果出力

シート「一覧」にエラーチェックしたファイルの概要が出力されます。

エクセルファイルを保存してください。ファイルの名前や保存場所は任意です。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
1	エラーチェックリスト	シート一覧														
2	シート名	必須エラー	警告エラー	対象	ファイル場所											
3	s3	2	0	実施	C:\Users\...\Desktop\test\建設リサイクル報告様式\16検証.xlsx											
4	s4	15	1	土木	C:\Users\...\Desktop\test\建設リサイクル報告様式\平成30年度利用量・搬出先調査票1土木<電子用>_20180319.xlsx											
5	s5	11	1	建築	C:\Users\...\Desktop\test\建設リサイクル報告様式\平成30年度利用量・搬出先調査票2建築<電子用>_20170312.xlsx											
6	s6	11	1	解体	C:\Users\...\Desktop\test\建設リサイクル報告様式\平成30年度利用量・搬出先調査票3解体<電子用>_20180312.xlsx											
7	①	②	③	④	⑤											

- ①シート名 : セルをクリックすると各ファイルの詳細エラーに移動します。
- ②必須エラー : 必須エラーの個数を表示します。
- ③警告エラー : 警告エラーの個数を表示します。
- ④対象 : 実施・・・建設リサイクル報告様式であることを表します。
- ⑤ファイル場所 : エラーチェックを実施したファイルの場所やファイル名を表示します。

### 6. エラーの修正

各シートにあるエラーについて、エラー解説（第2章）を参考に確認及び必要に応じて修正します。

## 第2章 エラー解説

### 1. エラーの種類

エラーの種類には、次の2種類があります。

①必須エラー：修正が必要な項目

②警告エラー：記載内容について確認し、必要に応じて修正が必要な項目

### 2. エラーの確認方法

#### (1) 一覧の確認

エラーチェックを実施し、任意で保存したエクセルファイルを確認してください※1（第1章5. 結果出力を参照）。出力されたエクセルのシート「一覧」にチェックしたファイルの必須エラーと警告エラーの個数が表示されます。

※1 発注者や協議会事務局から提供される場合があります。

シート名	必須エラー	警告エラー	対象	ファイル場所
s3	4	0	実施	C:\Users\¥Desktop¥テスト¥10検証.xlsx
s4	2	26	実施	C:\Users\¥Desktop¥テスト¥12検証.xlsx
s5	0	5	実施	C:\Users\¥Desktop¥テスト¥13検証.xlsx
s6	0	6	実施	C:\Users\¥Desktop¥テスト¥14検証.xlsx
s7	0	2	実施	C:\Users\¥Desktop¥テスト¥15検証.xlsx
s8	9	2	実施	C:\Users\¥Desktop¥テスト¥16検証.xlsx
s9	2	2	実施	C:\Users\¥Desktop¥テスト¥19-2検証.xlsx
s10	2	2	実施	C:\Users\¥Desktop¥テスト¥19検証.xlsx
s11	2	0	実施	C:\Users\¥Desktop¥テスト¥2検証.xlsx
s12	5	0	実施	C:\Users\¥Desktop¥テスト¥3検証.xlsx
s13	0	0	実施	C:\Users\¥Desktop¥テスト¥5-2検証.xlsx
s14	0	2	実施	C:\Users\¥Desktop¥テスト¥5検証.xlsx
s15	2	3	実施	C:\Users\¥Desktop¥テスト¥5検証.xlsx
s16	4	0	実施	C:\Users\¥Desktop¥テスト¥5検証.xlsx
s17	0	0	実施	C:\Users\¥Desktop¥テスト¥7検証.xlsx

必須エラーは「0」になるまで修正

②詳細の確認はここをクリック

①シート「一覧」を確認

## (2) 詳細の確認

シート「一覧」の「シート名」をクリックするとエラーの詳細が確認できます。

「第2章 3. エラーの内容」を確認し、必要に応じて修正してください。

赤文字の必須エラーは、エラーがなくなるまで修正してください。

青文字の警告エラーは、入力間違いや選択間違いがあれば修正してください。

間違っていない場合はそのまま結構です。

エラー修正後には、「第1章 エラーチェックの利用方法」にて再度チェックを実施し、必須エラーが出力されないことを確認してください。

工事の概要

発生箇所	入力値	エラー内容 (※は必須)	コメント
資材利用 コンクリート 枚目・1行目 利用量	1000.000	(12)原単位	利用量が基準値を超えています
資材利用 コンクリート及び鉄 枚目・1行目 利用量	10000.000	(12)原単位	利用量が基準値を超えています
資材利用 木材 枚目・1行目 利用量	10000.000	(12)原単位	利用量が基準値を超えています
資材利用 アスファルト・コンクリート 枚目・1行目 利用量	10000.000	(12)原単位	利用量が基準値を超えています
資材利用 土砂 枚目・1行目 利用量	10000.000	(12)原単位	利用量が基準値を超えています
資材利用 土砂 枚目・1行目 再生資材利用量	10000.000	※(16)値不一致	再生資材利用量と一致していません
資材利用 土砂 枚目・1行目 再生資材利用量	100.000	※(16)値不一致	利用量と一致していません
資材利用 土砂 枚目・1行目 再生資材利用量	100.000	(12)原単位	再生資材利用量が基準値を超えています
資材利用 碎石 枚目・1行目 利用量	100000.000	(12)原単位	
資材利用 塩化ビニル管・継手 枚目・1行目 利用量	10000.000	(9)	

エラー箇所を表

入力値を表示

エラー内容を表示

- 赤は必須エラー
- 青は警告エラー

( )内の番号は、目次「3. エラー内容」の番号と合致しています。

出力コメントも参考にいただきながら、確認及び必要に応じて修正をお願いします。

(3) 建設リサイクル報告様式の確認・修正の際の注意事項

エラーチェックツールは、建設リサイクル報告様式の**実施書**部分をチェックしています。

※計画書部分のチェック機能はありません。

ご確認及び必要に応じて修正する場合は、建設リサイクル報告様式の**実施書**部分で行ってください。誤って、計画書部分を修正しないようご注意ください。

- シート1枚目・・・177行目以降（P. 3～P. 4）
- シート2～5枚目・・・151行目以降（P. 3～P. 4）

177  
178  
179  
180  
181  
182  
183  
184  
185  
186  
187  
188  
189  
190  
191  
192  
193

様式1 再生資源利用実施書 - 建設資材搬入工事用 - 「建設リサイ

1. 工事概要

		発注担当者チェック欄		法人番号	0
発注機関を選択	大分類	発注機関コード		請負会社名	0
	中分類			建設業許可の種類	0
	小分類	担当者	0	建設工事業登録の種類	0
		TEL	0	会社所在地	0

273  
274  
275  
276  
277  
278  
279  
280  
281  
282  
283  
284  
285  
286  
287  
288  
289  
290

様式2 再生資源利用促進実施書 - 建設副産物搬出工事用 -

1. 工事概要 表面(様式1)に必ずご記入下さい

2. 建設副産物搬出実施

建設副産物の種類	①発生量 (欄別等) =②+③+④ <small>①欄別等三桁まで</small>	現場内利用・減量				現場外搬出につ		
		用途コード *10	②利用量 <small>②欄別等三桁まで</small>	③現場内取崩分 <small>③欄別等三桁まで</small>	④減量化 率 % <small>④欄別等三桁まで</small>	搬出先名称 2ヶ所まで記入できます。3ヶ所以上にわたる時は、用紙を換えて下さい。		区分
コンクリート塊	0.000 トン		トン	トン		搬出先1:		
						搬出先2:		
						搬出先3:		

### 3. エラー内容

修正をお願いします

#### (1) 空白 (必須)

「(1) 空白」エラーは、集計に最低限必要な「必須項目」が空白となっています。

「必須項目」は、次に示す箇所ですので記入してください。

#### ・ 工事概要

発注機関、工事名、加盟団体名、工事場所、工期開始年、工期開始月、  
工期開始日、工期終了年、工期終了月、工期終了日、工事種類、請負額<sup>※1</sup>、  
再資源化費用、建築面積<sup>※1、2</sup>、延床面積<sup>※1、2</sup>、構造<sup>※2</sup>、用途<sup>※2</sup>

#### ・ 建設資材利用実績

小分類、利用量、供給元種類<sup>※3</sup>、供給元場所の住所<sup>※3</sup>、再生資材利用量<sup>※3</sup>

#### ・ 建設副産物発生・搬出

現場内用途<sup>※4</sup>、現場内利用量<sup>※4</sup>、減量化<sup>※5</sup>、減量化量<sup>※5</sup>、搬出先住所<sup>※6</sup>、運搬  
距離<sup>※6</sup>、搬出先種類<sup>※6</sup>、現場外搬出量<sup>※6</sup>

※1 数値が0も空白と見なす

※2 「建築工事」の場合のみ必須（土木工事、修繕工事の場合、空白で可）

※3 「再生資材利用量」が0を超える（再生資材利用量>0）時は必須

※4 「現場内利用量」が0を超える時は必須

※5 「減量化量」が0を超える時は必須

※6 「現場外搬出量」が0を超える時は必須

例：運搬距離が未記入の場合

#### 詳細表示

発生箇所	入力値	エラー内容 (※は必須)	コメント
副産物搬出 コンクリート塊 1枚目・1行目 運搬距離		※(1)空白	運搬距離を入力してください。

建設リサイクル報告様式						
現場外搬出について						
搬出先名称 2ヶ所まで記入できます。3ヶ所以上に わたる時は、用紙を換えて下さい。	区分	施工条件の 内容 コード=12	搬出先住所	住所コード *4	距離 *13	の種別 コード *13
搬出先1 : A	民間	A指定処分	北海道札幌市	01100		km S.中台外
搬出先2 :						km

距離を入力してください



修正をお願いします

(2) 数値 (必須)

「(2)数値」エラーは、数値を入力すべき項目に数値以外が入力されていることを示しています。数値を入力すべき項目は、次に示す箇所ですので修正してください。

- ・ 工事概要（請負金額、再資源化費、建築業許可番号、建築面積、延床面積）
- ・ 建設資材利用実績（利用量、再生資材利用量）
- ・ 建設副産物発生・搬出（現場内利用量、現場内利用改良分、減量化量、運搬距離、搬出量、搬出量改良分）

例：土砂数量に文字が記入されている場合

**詳細表示**

発生箇所	入力値	エラー内容（※は必須）	コメント
資材利用 土砂 1枚目・1行目 利用量	k	※(2)数値	数値を入力してください。

**建設リサイクル報告様式**

建設資材（新材を含む全体の利用状況）					左
分類	小分類 コード*5	規格	主な利用用途 コード*6	利用量(A) 小数点第三位まで	再生
土砂	1.一種		2.路床	k	締めm <sup>3</sup>
					締めm <sup>3</sup>
	合計			#VALUE!	締めm <sup>3</sup>
碎石					m <sup>3</sup>

数量を記入してください

修正をお願いします

#### (4) コード (必須)

「(4)コード」エラーは、定義づけられていない項目（規定値、プルダウン）、あるいはあり得ないカレンダーの日付を選択していることを示しています。コードを選択すべき項目箇所は、次のコードですので修正してください。

- ・ 工事概要（発注機関コード、住所コード、工期開始年、工期開始月、工期開始日、工期終了年、工期終了月、工期終了日、工事種別コード、再資源化完了年、再資源化完了月、再資源化完了日、請負会社コード、建設業許可主、建設業許可形態、解体業登録主、工事責任者役割、構造、用途）
- ・ 建設資材利用実績（小分類コード、利用用途コード、供給元種類コード、施工条件内容コード、供給元場所住所コード、再生資材コード）
- ・ 建設副産物発生・搬出（現場内用途コード、減量法、搬出先場所住所コード、公民区分、施工条件内容コード、搬出先種類コード）

例：存在しない住所コードを入力した場合

#### 詳細表示

発生箇所	入力値	エラー内容（※は必須）	コメント
資材利用 コンクリート 1枚目・1行目 供給元住所コード	11000	※(4)コード	存在しない住所コードです。確認し修正してください。

#### 建設リサイクル報告様式

搬出先場所住所	
住所コード *4	資材供給元住所、副産物搬出先住所の住所コード*4は以下のプルダウンリストで都道府県、市区町村を選択し、表示された住所コード（5桁）を入力してください。
北海道札幌市	都道府県： 北海道 市区町村： 札幌市
11000	住所コード 01100

エクセル上部(印刷範囲外)にあるコードを調べて修正してください

確認し必要に応じて修正  
してください

(5) 工事種別 (警告 : 内容確認)

「(5) 工事種別」エラーは、工事種別が土木工事、もしくは修繕・模様替え工事にもかかわらず、「建築面積」、「延床面積」、「階数\_地上」、「階数\_地下」、「構造」、「用途」(建築・解体工事のみ入力) の項目が入力されていることを示しています。工事種別に間違いがないか確認し、必要に応じて修正してください。

例：築堤（河川）工事で建築面積が記入されている場合

詳細表示			
発生箇所	入力値	エラー内容 (※は必須)	コメント
工事概要 建築面積	50	(5) 工事種別	工事種別を確認してください。正しければそのままで結構です。
工事概要 延床面積	100	(5) 工事種別	工事種別を確認してください。正しければそのままで結構です。
工事概要 地上階数	2	(5) 工事種別	工事種別を確認してください。正しければそのままで結構です。
工事概要 構造	5.木造	(5) 工事種別	工事種別を確認してください。正しければそのままで結構です。
工事概要 用途	1.住居専用	(5) 工事種別	工事種別を確認してください。正しければそのままで結構です。

建設リサイクル報告様式

工事名	テスト1	工事種別選択	築堤 (河川)	工事種別コード*3	A-1
工事施工場所	北海道	札幌市		01100	
工事概要等	テスト	施工条件の内容 (再生資源の利用 に関する特記事項 等)	テスト		

工事種別が間違っていないか  
確認し、必要に応じて修正して  
ください。

建築面積	50.00 m <sup>2</sup>	階数	地上 2階
延床面積	100.00 m <sup>2</sup>		地下 0階
構造	5.木造		
用途	1.居住専用		

※解体工事については、建築面積をご記入いただくなくても結構です。

修正をお願いします

**(6) 不一致 (必須)**

建設資材において、供給元種類コードが「1. 現場内利用」の時、「住所コード」(工事場所)と「供給元住所住所コード」の関係が矛盾していることを示しています。次の場合、「(6) 不一致」エラーとなりますので、修正してください。

「住所コード」(工事場所) ≠ 「供給元住所住所コード」

例：現場内利用の再生資材の供給元場所住所において、工事施工場所の住所コードと異なったコードを入力している場合

詳細表示

発生箇所	入力値	エラー内容 (※は必須)	コメント
資材利用 土砂 1枚目・1行目 供給元種類コード	1.現場内	※(6)不一致	供給元コードと工事場所コードが一致しません。現場内利用なので一致しなければなりません。確認し修正してください。
資材利用 土砂 1枚目・1行目 供給元住所コード	01101	※(6)不一致	供給元コードと工事場所コードが一致しません。現場内利用なので一致しなければなりません。確認し修正してください。

建設リサイクル報告様式

工事名	テスト1		工種を選択	築堤 (河川)	工事種別コード*3	A-1
工事施工場所	北海道	札幌市	住所コード	01100		
工事概要等	テスト		施工案件の内容 (再生資源の利用に関する特記事項等)	テスト		

供給元種類コード*8	施工案件内容コード*9	再生資材の供給元場所住所	住所コード*4
1 現場内	1 指示あり	北海道札幌市	01101

現場内利用は、工事施工場所コードと供給元住所コードを一致させてください。

確認し必要に応じて修正  
してください

(6) 2 発注機関・工事場所不一致（警告：コード確認）

公共工事の場合、通常発注機関の管轄する区域内で工事を行います。「(6)2 発注機関・工事場所不一致」エラーは、公共工事発注機関の管轄区域以外の場所で工事を行っていることを示しています。公共工事発注機関と工事施工場所との関係が表に該当する場合、「(6)2 発注機関・工事場所不一致」エラーとなりますので確認し、必要に応じて修正してください。

表 発注機関・工事場所不一致エラー条件

発注機関	施工場所
国土交通省等	
北海道開発局	北海道以外
東北地方整備局	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県以外
関東地方整備局	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県以外
北陸地方整備局	新潟県、富山県、石川県、山形県、福島県、長野県、岐阜県、福井県以外
中部地方整備局	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、長野県以外
近畿地方整備局	福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県以外
中国地方整備局	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県以外
四国地方整備局	徳島県、香川県、愛媛県、高知県以外
九州地方整備局	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、山口県以外
沖縄総合事務局	沖縄県以外
都道府県	発注機関と同じ都道府県以外
政令市	発注機関と同じ政令市以外
23区・市町村	発注機関と同じ区・市町村以外

国土交通省等以外の国の機関、及び特殊法人等はチェック対象外。

例：北海道開発局発注工事の施工場所が東京都内になっている場合

詳細表示

発生箇所	入力値	エラー内容（※は必須）	コメント
工事概要 発注機関コード	810101	(6)2 発注機関・工事場所不一致	「発注機関」と「工事場所」を確認してください。正しければそのまま結構です。
工事概要 工事場所コード	13101	(6)2 発注機関・工事場所不一致	「発注機関」と「工事場所」を確認してください。正しければそのまま結構です。

建設リサイクル報告様式

1. 工事概要

発注機関を選択	大分類	国土交通省	発注機関コード	810101
	中分類	北海道開発局		
	小分類	札幌開発建設部 本部		
工事名	テスト1			
工事施工場所	東京都	千代田区	住所コード	13101
工事概要等	テスト		施工条件の内容 (再生資源の利用 に関する特記事項 等)	

発注担当者チェック欄

施工場所が間違っていないか確認し、必要に応じて修正してください。

修正をお願いします

### (7) 大小関係 (必須)

「(7) 大小関係」エラーは、工期の年月日や各資材の搬入量の大小関係が矛盾していることを示しています。大小関係が次の場合、「⑦大小関係」エラーとなりますので修正してください。

- ・ 「工期開始年月日」が「工期終了年月日」より時期的に後
- ・ 「工期開始年月日」が「再資源化完了年月日」より時期的に後
- ・ 「請負金額」が「再資源化費用」より小さい
- ・ 階数が2層以上（[階数\_地上]+[階数\_地下]≥2）で「延床面積」が「建築面積」より小さい（建築工事のみ）
- ・ 「利用量」が「再生資材利用量（合計）」より小さい

例：「工期開始年月日」が「工期終了年月日」より時期的に後の場合

#### 詳細表示

発生箇所	入力値	エラー内容（※は必須）	コメント
工事概要 工期開始・年	30	※(7)大小関係	日付の大小関係が矛盾しています。確認し修正してください。
工事概要 工期開始・月	6	※(7)大小関係	日付の大小関係が矛盾しています。確認し修正してください。
工事概要 工期開始・日	1	※(7)大小関係	日付の大小関係が矛盾しています。確認し修正してください。
工事概要 工期終了・年	30	※(7)大小関係	日付の大小関係が矛盾しています。確認し修正してください。
工事概要 工期終了・月	2	※(7)大小関係	日付の大小関係が矛盾しています。確認し修正してください。
工事概要 工期終了・日	20	※(7)大小関係	日付の大小関係が矛盾しています。確認し修正してください。

#### 建設リサイクル報告様式

工期	平成	30	年	6	月	1	日から
	平成	30	年	2	月	20	日まで

正しい工期に修正してください。

確認し必要に応じて修正  
してください

### (9) レンジオーバー（警告：数値確認）

「(9) レンジオーバー」エラーは数値が大きすぎるため、異常値の可能性のあるデータを  
示しています。レンジオーバーのチェック項目及び基準は、次のとおりですので確認し、  
必要に応じて修正してください。

- ・ 請負金額 > 100,000（万円）
- ・ 建築面積（建築工事のみ） > 10,000（㎡）
- ・ 延床面積（建築工事のみ） > 10,000（㎡）
- ・ 階数\_地上 ≥ 100（階）
- ・ 階数\_地下 ≥ 10（階）
- ・ 利用量、再生資材利用量 > 100,000（t 又は m<sup>3</sup>）ただし「塩化ビニル管・継手」の場合は、  
> 100（t）
- ・ 現場内利用量、現場内利用改良分、減量化量、搬出量、搬出量改良分 > 100,000（t 又は  
地山 m<sup>3</sup>）ただし「廃塩化ビニル管・継手」の場合は、> 100（t）
- ・ 運搬距離 ≥ 100（km）

例：請負金額が 110,000 万円の場合

#### 詳細表示

発生箇所	入力値	エラー内容（※は必須）	コメント
工事概要 請負金額	110000	(9)レンジオーバー	請負金額が大きいですので確認してください。正しければそのまま結構です。

#### 建設リサイクル報告様式

請負金額	千 百 十 千 百 十 万 円 未 満 四 捨 五 入
	110000 万円（税込み）

間違っていないか確認し、必要に応  
じて修正してください。



確認し必要に応じて修正  
してください

(12) 原単位 (警告: 数値確認)

「(12)原単位」エラーは、「建設資材利用」又は「建設副産物発生・搬出」において、「工事規模※」に対して、「利用量(現場内利用量を除く)」又は「搬出量」が大きいことを示しています。量を確認し、必要に応じて修正してください。

※ 「工事規模」: 土木・修繕工事の場合は「請負金額」、建築・解体工事の場合は「延床面積」に対して、「利用量(現場内利用量を除く)」の合計、又は「搬出量」の合計が次表の数値以上の場合、「(12)原単位」エラーとなります。

(土木・修繕) (建築・解体)

「利用原単位」＝

「利用量(合計)(現場内利用量を除く)」÷「工事規模(請負金額 又は 延床面積)」

(土木・修繕) (建築・解体)

「搬出原単位」＝「場外搬出量(合計)」÷「工事規模(請負金額 又は 延床面積)」

表 原単位エラー基準

	品 目	土木 (t/or m <sup>3</sup> /万円)	建築 (t/or m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	解体 (t/or m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	修繕 (t/or m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )
資 材	建 設 資 材	3.0	50.0	50.0	3.0
	コンクリート	3.0	50.0	50.0	3.0
	コンクリート及び鉄	3.0	50.0	50.0	3.0
	木材	3.0	10.0	10.0	2.0
	アスファルト・コンクリート	2.0	0.5	0.5	1.0
	塩化ビニル管・継手	0.1	0.1	0.1	0.1
	石膏ボード	0.1	0.1	0.1	0.1
	土砂	15.0	3.0	3.0	10.0
	砕石	2.5	0.5	0.5	2.0
その他の建設資材	3.0	0.5	0.5	2.0	
建 設 副 産 物	建 設 副 産 物	3.0	1.0	3.0	3.0
	コンクリート塊	3.0	1.0	3.0	3.0
	建設発生木材	1.0	0.1	0.5	1.0
	アスファルト・コンクリート塊	2.0	0.3	0.3	2.0
	その他がれき	0.1	0.1	0.1	0.1
	伐木材	1.0	0.1	0.5	1.0
	建設汚泥	3.0	0.3	0.1	3.0
	建設混合廃棄物	2.0	0.3	1.0	2.0
	金属くず	1.0	0.1	0.1	1.0
	廃塩化ビニル管・継手	0.1	0.1	0.1	0.1
	廃プラスチック	0.1	0.1	0.1	0.1
	廃石膏ボード	0.1	0.1	0.1	0.1
	紙くず	0.01	0.1	0.1	0.1
	アスベスト	0.1	0.1	0.1	0.1
	その他分別廃棄物	1.0	0.1	0.1	0.1
	建設発生土	10.0	3.0	1.0	3.0

(第一種～第四種建設発生土、浚渫土の「搬出量」の合計)

例：コンクリートの利用量が基準値を超えている場合

**詳細表示**

発生箇所	入力値	エラー内容 (※は必須)	コメント
資材利用 コンクリート 1枚目・1行目 利用量	500.000	(12)原単位	工事規模に対して利用量が基準値を超えているので確認してください。

**建設資材 (新材を含む全体の利用状況)**

分類	小分類 コート*5	規格	主な利用用途 コート*5	利用量(A) 小数点第三位まで
コンクリート	2再10H			500.000 トン
合 計				500.000 トン

間違っていないか確認し、必要に応じて修正してください。

確認し必要に応じて修正  
してください

(13) 解体以外 (警告：内容確認)

「(13)解体以外」エラーは、「工事種別」が解体工事となっているが、「建設資材」の搬入があることを示しています。解体工事で資材の搬入があったか確認し、必要に応じて修正してください。

例：解体工事に建設資材の利用がある場合

詳細表示

発生箇所	入力値	エラー内容 (※は必須)	コメント
資材利用 コンクリート 1枚目・1行目 小分類コード	2.再コ(H)	(13)解体以外	解体工事に搬入があります。確認してください。正しければそのままで結構です。

建設リサイクル報告様式

工事名	テスト1		工種を選択 非木造解体	工事種別コード*3 P
工事施工場所	北海道	札幌市	01100	
工事概要等	テスト		施工案件の内容 (再生資源の利用 に関する特記事項 等)	

2. 建設資材利用実施

建設資材 (新材を含む全体の利用状況)				左記のうち、再生資材の利用状況 (再生資材を利用した場合に記入して下さい)			
小分類	種別	未利用用途	利用量(A)	再生資材の名称	再生資材利用量(B)	再生資材の供給元	再生資材の種別
コンクリート	2.再コ(H)		1,000 トン	1.再コ(H)	1,000 トン	※地	※指示なし
合計			1,000 トン		1,000 トン		

間違っていないか確認し、必要に応じて修正してください。

確認し必要に応じて修正  
してください

(14) 距離オーバー (警告 : 内容確認)

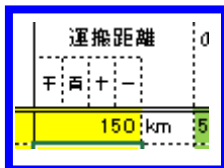
「(14) 距離オーバー」エラーは、「住所コード」(工事場所)と「搬出先場所住所コード」  
が同じ都道府県であるにもかかわらず、「運搬距離」が100km以上であることを示してい  
ます。距離を確認し、必要に応じて修正してください。

例 : 各都道府県内で運搬距離が100kmを超えている場合

詳細表示

発生箇所	入力値	エラー内容 (※は必須)	コメント
副産物搬出 コンクリート塊 1枚目・1行目 運搬距離	150	(14)距離オーバー	距離が100kmを超えています。確認してください。

建設リサイクル報告様式



間違っていないか確認し、必要に応じて修  
正してください。

確認し必要に応じて修正  
してください

(15) 隣県（警告：内容確認）

「(15) 隣県」エラーは、「住所コード」（工事場所）と「搬出先場所住所コード」が隣の都道府県内であるにもかかわらず、「運搬距離」が200km以上であること、又は、「住所コード」（工事場所）と「搬出先場所住所コード」が隣の都道府県より遠い関係であるにもかかわらず、「運搬距離」が40km未満又は500km以上であることを示しています。

「工事場所」の都道府県と、「隣県」の関係は「表 隣県データ」に示していますので、距離を確認し、必要に応じて修正してください。

表 隣県データ

※（ ）は隣県に含める

都道府県名	隣県
01.北海道	なし
02.青森県	03.岩手県、05.秋田県
03.岩手県	02.青森県、04.宮城県、05.秋田県、(06.山形県)
04.宮城県	03.岩手県、05.秋田県、06.山形県、07.福島県
05.秋田県	02.青森県、03.岩手県、04.宮城県、06.山形県
06.山形県	(03.岩手県)、04.宮城県、05.秋田県、07.福島県、15.新潟県
07.福島県	04.宮城県、06.山形県、08.茨城県、09.栃木県、10.群馬県、15.新潟県
08.茨城県	07.福島県、09.栃木県、(10.群馬県)、11.埼玉県、12.千葉県、(13.東京都)
09.栃木県	07.福島県、08.茨城県、10.群馬県、11.埼玉県、(12.千葉県)、(15.新潟県)
10.群馬県	07.福島県、(08.茨城県)、09.栃木県、11.埼玉県、(12.千葉県)、15.新潟県、(19.山梨県)、20.長野県
11.埼玉県	08.茨城県、09.栃木県、10.群馬県、12.千葉県、13.東京都、(14.神奈川県)、19.山梨県、20.長野県
12.千葉県	08.茨城県、(09.栃木県)、(10.群馬県)、11.埼玉県、13.東京都、14.神奈川県
13.東京都	(08.茨城県)、11.埼玉県、12.千葉県、14.神奈川県、19.山梨県
14.神奈川県	(11.埼玉県)、12.千葉県、13.東京都、19.山梨県、22.静岡県
15.新潟県	06.山形県、07.福島県、(09.栃木県)、10.群馬県、16.富山県、20.長野県
16.富山県	15.新潟県、17.石川県、(18.福井県)、20.長野県、21.岐阜県
17.石川県	16.富山県、18.福井県、21.岐阜県
18.福井県	(16.富山県)、17.石川県、21.岐阜県、25.滋賀県、26.京都府
19.山梨県	(10.群馬県)、11.埼玉県、13.東京都、14.神奈川県、20.長野県、22.静岡県
20.長野県	10.群馬県、11.埼玉県、15.新潟県、16.富山県、19.山梨県、21.岐阜県、22.静岡県、23.愛知県
21.岐阜県	16.富山県、17.石川県、18.福井県、20.長野県、23.愛知県、24.三重県、25.滋賀県
22.静岡県	14.神奈川県、19.山梨県、20.長野県、23.愛知県
23.愛知県	20.長野県、21.岐阜県、22.静岡県、24.三重県、(25.滋賀県)
24.三重県	21.岐阜県、23.愛知県、25.滋賀県、26.京都府、29.奈良県、30.和歌山県
25.滋賀県	18.福井県、21.岐阜県、(23.愛知県)、24.三重県、26.京都府、(27.大阪府)、(29.奈良県)
26.京都府	18.福井県、24.三重県、25.滋賀県、27.大阪府、28.兵庫県、29.奈良県
27.大阪府	(25.滋賀県)、26.京都府、28.兵庫県、29.奈良県、30.和歌山県
28.兵庫県	26.京都府、27.大阪府、31.鳥取県、33.岡山県
29.奈良県	24.三重県、(25.滋賀県)、26.京都府、27.大阪府、30.和歌山県
30.和歌山県	24.三重県、27.大阪府、29.奈良県
31.鳥取県	28.兵庫県、32.島根県、33.岡山県、34.広島県
32.島根県	31.鳥取県、(33.岡山県)、34.広島県、35.山口県
33.岡山県	28.兵庫県、31.鳥取県、(32.島根県)、34.広島県
34.広島県	31.鳥取県、32.島根県、33.岡山県、35.山口県
35.山口県	32.島根県、34.広島県、(40.福岡県)
36.徳島県	37.香川県、38.愛媛県、39.高知県
37.香川県	36.徳島県、38.愛媛県、(39.高知県)
38.愛媛県	36.徳島県、37.香川県、39.高知県
39.高知県	36.徳島県、(37.香川県)、38.愛媛県
40.福岡県	(35.山口県)、41.佐賀県、43.熊本県、44.大分県
41.佐賀県	40.福岡県、42.長崎県、(43.熊本県)
42.長崎県	41.佐賀県
43.熊本県	40.福岡県、(41.佐賀県)、44.大分県、45.宮崎県、46.鹿児島県
44.大分県	40.福岡県、43.熊本県、45.宮崎県
45.宮崎県	43.熊本県、44.大分県、46.鹿児島県
46.鹿児島県	43.熊本県、45.宮崎県
47.沖縄県	なし

例：東京都千代田区から埼玉県さいたま市に搬出しており、運搬距離が300kmの場合

**詳細表示**

発生箇所	入力値	エラー内容（※は必須）	コメント
副産物搬出 コンクリート塊 1枚目・1行目 運搬距離	300	(15)隣県	隣県で距離が200kmを超えています。確認してください。

**建設リサイクル報告様式**

工事名	テスト1		工種を選択	工事種別コード*3
			築堤 (河川)	A-1
工事施工場所	東京都	千代田区		住所コード 13101
工事概要等			再生資源の利用 に関する特記事項 等	

搬出先場所住所	住所コード *4	運搬距離
さいたま市	11100	300 km

間違っていないか確認し、必要に応じて修正してください。

修正をお願いします

**(16) 値不一致 (必須)**

「(16) 値不一致」エラーは、「利用量」と「再生資材利用量」の関係が矛盾していることを示しています（資材が再生材に限定される場合は[利用量=再生資材利用量]、新材に限定される場合は[再生資材利用量=0]とならなくてはならない）。

「利用量」と「再生資材利用量」が一致するよう修正してください。

※「利用量」と「再生資材利用量」が次の関係の場合、「⑩値不一致」エラーとなります。

- 1) コンクリートの小分類が「再生生コン(\*)」、「無筋コンクリート二次製品(リユース品)」、「再生無筋コンクリート二次製品(\*)」、及びコンクリート及び鉄の小分類が「有筋コンクリート二次製品(リユース品)」、「再生有筋コンクリート二次製品(\*)」の時、  
「利用量」≠「再生資材利用量」
- 2) コンクリートの小分類が「生コン(バージン骨材)」、「無筋コンクリート二次製品(バージン骨材)」、及びコンクリート及び鉄の小分類が「有筋コンクリート二次製品(バージン骨材)」の時、「再生資材利用量」≠0
- 3) 土砂の小分類が「山砂、山土などの新材(採取土、購入土)」以外の時、  
「利用量」≠「再生資材利用量」
- 4) 土砂の小分類が「山砂、山土などの新材(採取土、購入土)」の時、  
「再生資材利用量」≠0
- 5) 砕石の小分類が「鉱さい」の時、  
「利用量」≠「再生資材利用量」
- 6) 砕石の小分類が「ぐり石・割ぐり石・自然石」の時、  
「再生資材利用量」≠0

例：再生骨材Hの利用量と再生資材利用量が一致していない場合

詳細表示

発生箇所	入力値	エラー内容(※は必須)	コメント
資材利用 コンクリート 1枚目・1行目 利用量	10,000	※(16)値不一致	再生資材利用量と一致していません。確認し修正してください。
資材利用 コンクリート 1枚目・1行目 再生資材利用量	1,000	※(16)値不一致	利用量と一致していません。確認し修正してください。

建設リサイクル報告様式

建設資材 (新材を含む全体の利用状況)				左記のうち、再生資材の利用状況		
分類	小分類 コード*5	規格	主な利用用途 コード*6	利用量(A) 小拠点第三位まで	再生資材の名称 コード*7	再生資材利用量(B) 小拠点第三位まで
コンクリート	2再10H			10,000 トン	1再10H	1,000 トン
合計				10,000 トン		1,000 トン

利用量を確認し、再生資材利用量と利用量の数量を一致させてください。

確認し必要に応じて修正  
してください

(17) 工事種別・構造 (警告: コード確認)

「(17) 工事種別・構造」エラーは、「工事種別」では「木造」又は「非木造」を選択しているにもかかわらず、「構造」ではその逆の構造を選択していることを示しています。「工事種別」や「構造」を確認し、必要に応じて修正してください。

※「工事種別」と「構造」の関係が次の場合は、エラーとなります。

- 1) 工事種別が「非木造新築」で、構造が「木造」の時
- 2) 工事種別が「非木造増築」で、構造が「木造」の時
- 3) 工事種別が「非木造改築」で、構造が「木造」の時
- 4) 工事種別が「非木造解体」で、構造が「木造」の時
- 5) 工事種別が「木造新築」で、構造が「木造」以外の時
- 6) 工事種別が「木造増築」で、構造が「木造」以外の時
- 7) 工事種別が「木造改築」で、構造が「木造」以外の時
- 8) 工事種別が「木造解体」で、構造が「木造」以外の時

例: 工事種別が「非木造新築」で、構造が「木造」を選択している場合

詳細表示

発生箇所	入力値	エラー内容 (※は必須)	コメント
工事概要 構造	5.木造	(17)工事種別・構造	工事種別と構造が矛盾しています。確認し修正してください。

建設リサイクル報告様式

工事名	テスト1		工種を選択	工事種別コード*3
			非木造新築	N
工事施工場所	東京都	千代田区	住所コード	
			101	
	テスト		施工条件の内容	
			テスト	

間違っていないか確認し、必要に応じて修正してください。

建築面積	50.00 m <sup>2</sup>	階数	地上 2階
延床面積	100.00 m <sup>2</sup>		地下 0階
構造	5.木造		
使途	9.その他		



**(18) 品目・供給元 (警告：供給元確認)**

「(18) 品目・供給元」エラーは、建設資材の供給元種類が通常では考えられない供給元であることを示しています。

次ページの表を参考に、必要に応じて修正してください。

※ 「建設資材利用品目」、及び「小分類コード」と「供給元種類コード」の関係が以下の表の「×」の場合、エラーとなる。

例：再生骨材 H の供給元種類が「2.他の工事現場（内陸）」となっている場合

**詳細表示**

発生箇所	入力値	エラー内容 (※は必須)	コメント
資材利用 コンクリート 1枚目・2行目 小分類コード	2.再コ(H)	(18)品目・供給元	この組合せは入力できません。確認してください。正しければそのままで結構です。
資材利用 コンクリート 1枚目・2行目 供給元種類コード	2.他工(陸)	(18)品目・供給元	この組合せは入力できません。確認してください。正しければそのままで結構です。

**建設リサイクル報告様式**

建設資材 (新材を含む全体の利用状況)				左記のうち、再生資材の利用状況 (再生資材を利用した場合に記入して下さい)			
分類	小分類 コード*5	格	主な利用用途 コード*6	利用量(A) 小数点第三位まで	再生資材の名称 コード*7	再生資材利用量(B) 小数点第三位まで	再生資材の供給元施設、工事等の名称
コンクリ	2.再コ(H)			10,000 トン	1.再コ(H)	10,000 トン	A
				10,000 トン		10,000 トン	2.他工(陸)※相なし

次ページの表を確認して修正してください。

表 建設資材の小分類別の選択可能な供給元種類

○選択可、×選択不可

供給元種類	コンクリート									
	1.生コン (バージン骨材)	2.再生生 コン (Co 再生骨材 H)	3.再生生 コン (Co 再生骨材 M)	4.再生生 コン (Co 再生骨材 L)	5.再生生 コン (そ の他再生 材)	6.無筋コン クリート二 次製品 (バ-ジ ン骨材)	7.無筋コン クリート二 次製品 (リ ユース品)	8.再生無 筋コンクリ ート二次製 品 (Co再生 骨材)	9.再生無 筋コンクリ ート二次製 品 (その他 再生材)	10.その他
1.現場内利用	—	×	×	×	×	—	○	×	×	○
2.他の工事現場 (内陸)	—	×	×	×	×	—	○	×	×	○
3.他の工事現場 (海面)	—	×	×	×	×	—	○	×	×	○
4.再資源化施設	—	×	×	×	×	—	○	×	×	○
5.土砂ストックヤード	—	×	×	×	×	—	×	×	×	×
6.その他	—	○	○	○	○	—	○	○	○	○

供給元種類	コンクリート及び鉄					木材		アスファルト・コンクリート							
	1.有筋コン クリート二 次製品 (バ-ジ ン骨材)	2.有筋コン クリート二 次製品 (リ ユース品)	3.再生有 筋コンクリ ート二次製 品 (Co再生 骨材)	4.再生有 筋コンクリ ート二次製 品 (その他 再生材)	5.その他	1.木材 (ボード 類を除 く)	2.木質 ボード	1.粗粒度 アスコン	2.密粒度 アスコン	3.細粒度 アスコン	4.開粒度 アスコン	5.改質ア スコン	6.アス ファルト モルタル	7.加熱ア スファル ト安定処 理路盤材	8.その他
1.現場内利用	—	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.他の工事現場 (内陸)	—	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3.他の工事現場 (海面)	—	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4.再資源化施設	—	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5.土砂ストックヤード	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
6.その他	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

供給元種類	土砂									
	1.第一種 建設発生 土	2.第二種 建設発生 土	3.第三種 建設発生 土	4.第四種 建設発生 土	5.浚渫土 以外の泥 土	6.浚渫土	7.土質改 良土	8.建設汚 泥処理土	9.再生コ ンクリー ト砂	10.山砂、 山土など の新材 (採 取土、購入 土)
1.現場内利用	○	○	○	○	○	○	×	○	×	—
2.他の工事現場 (内陸)	○	○	○	○	○	○	×	○	×	—
3.他の工事現場 (海面)	×	×	×	×	×	○	×	×	×	—
4.再資源化施設	×	×	×	×	×	×	○	○	○	—
5.土砂ストックヤード	○	○	○	○	○	○	×	×	×	—
6.その他	○	○	○	○	○	○	×	○	×	—

供給元種類	砕石						塩化ビニル管・継手	
	1.クラッ シャーラ ン	2.粒度調 整砕石	3.鉱さい	4.単粒度 砕石	5.ぐり 石、割ぐ り石、自 然石	6.その他	1.硬質塩 化ビニル 管	2. その 他
1.現場内利用	○	○	×	○	—	○	○	○
2.他の工事現場 (内陸)	○	○	×	○	—	○	○	○
3.他の工事現場 (海面)	○	○	×	○	—	○	○	○
4.再資源化施設	○	○	×	○	—	○	○	○
5.土砂ストックヤード	×	×	×	×	—	×	×	×
6.その他	○	○	○	○	—	○	○	○

供給元種類	石膏ボード						その他の 建設資材
	1.石膏 ボード	2.シー リング石 膏ボ ード	3.強化石 膏ボ ード	4.化粧石 膏ボ ード	5.石膏ラ スボ ード	6.その他	
1.現場内利用	○	○	○	○	○	○	○
2.他の工事現場 (内陸)	○	○	○	○	○	○	○
3.他の工事現場 (海面)	○	○	○	○	○	○	○
4.再資源化施設	○	○	○	○	○	○	○
5.土砂ストックヤード	×	×	×	×	×	×	×
6.その他	○	○	○	○	○	○	○

修正をお願いします

**(18) 2品目・搬出先（必須）**

「(18) 品目・搬出先」エラーは、搬出した建設副産物の品目から通常では考えられないところへ搬出していることを示しています。

下表を参考に、修正してください。

※ 「建設副産物品目」と「搬出先種類コード」の関係が以下の表の「×」の場合、エラーとなる。

例：コンクリート塊の搬出先が「1.売却」となっている場合

詳細表示

発生箇所	入力値	エラー内容（※は必須）	コメント
副産物搬出 コンクリート塊 1枚目・1行目 搬出先種類コード	1.売却	※(18)2品目・搬出先	この搬出先は入力できません。確認し修正してください。

建設リサイクル報告様式

建設副産物の発生量	現場内利用・廃棄				現場外搬出について									
	場外搬出時の性状	利用量	現場内改良分	廃棄量	搬出先名称	区分	搬出先住所	搬出先種類コード	運搬方法	搬出先	現場外搬出量	うち現場内改良分	再生資源利用促進量	
コンクリート塊	1,000	トン	トン	トン	コンクリート塊	18	東京都港区	11100	トラック	1,000	トン	0	0	

下表を確認して修正してください。

**表 建設副産物の選択可能な搬出先種類**

○選択可、×選択不可

搬出先の種類	コンクリート塊	アスファルト・コンクリート塊	建設発生木材A	建設発生木材B	建設汚泥	金属くず	紙くず	廃プラスチック（廃塩化ビニル管・継手を除く）	廃塩化ビニル管・継手	廃石膏ボード	その他の分別された廃棄物	混合状態の廃棄物（建設混合性）	7Sベスト（飛散）	その他がれき類
1.売却	×	×	○	○	×	○	○	×	○	×	○	×	×	×
2.他の工事現場	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×
3.広域認定制度による処理	×	×	○	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×
4.中間処理施設（アスファルト合材プラント）	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
5.中間処理施設（合材プラント以外の再資源化施設）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6.中間処理施設（サーマルリサイクル）	×	×	○	○	×	×	○	○	○	×	○	○	×	×
7.中間処理施設（単純焼却）	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×
8.廃棄物最終処分場（海面処分場）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9.廃棄物最終処分場（内陸処分場）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

確認し必要に応じて修正  
してください

#### (19) 現場内利用不整合（警告：内容確認）

「現場内利用」とは、たとえば建設工事現場から発生した建設発生土を、建設工事現場から搬出せずに、当該建設工事現場内で埋戻材などとして利用した行為です。

したがって、「現場内利用」を行った場合は、「建設資材利用実績」及び「建設副産物発生実績」の両方に「現場内利用」の記載が必要です。

「(19)現場内利用不整合」エラーは、「現場内利用」を行っているため両方記載すべきところを、「建設資材利用実績」又は「建設副産物発生実績」のどちらかが欠けている場合を示しており、その関係は次のとおりですので確認し、必要に応じて修正してください。

- 1) 建設資材「土砂現場内利用量」※1 > 0 の時に、  
建設発生土「建設発生土現場内利用量」※2 = 0
  - 2) 建設発生土「建設発生土現場内利用量」※2 > 0 の時に、  
建設資材「土砂現場内利用量」※1 = 0
  - 3) 建設資材「碎石現場内利用量」※3 + 「アスファルト・コンクリート現場内利用量」※4 > 0 の時に、  
建設廃棄物「コンクリート塊現場内利用量」 + 「アスファルト・コンクリート塊現場内利用量」 = 0
  - 4) 建設廃棄物「コンクリート塊現場内利用量」 + 「アスファルト・コンクリート塊現場内利用量」 > 0 の時に、  
建設資材「碎石現場内利用量」※3 + 「アスファルト・コンクリート現場内利用量」※4 = 0
- ※1 土砂について、供給元種類コードが「1. 現場内利用」の時の「再生資材利用量」の合計  
※2 「第一種建設発生土」、「第二種建設発生土」、「第三種建設発生土」、「第四種建設発生土」、「浚渫土以外の泥土」、「浚渫土」の「現場内利用量」の合計  
※3 碎石について、供給元種類コードが「1. 現場内利用」の時の「再生資材利用量」の合計  
※4 アスファルト・コンクリートについて、供給元種類コードが「1. 現場内利用」の時の「再生資材利用量」の合計

例：建設資材 「土砂現場内利用量」があり、建設副産物搬出「建設発生土の現場内利用」がない場合

**詳細表示**

発生箇所	入力値	エラー内容（※は必須）	コメント
資材利用 土砂 現場内利用量	100.000	(19)不整合	資材利用に現場内利用があるにも関わらず副産物搬出に現場内利用がありません。確認してください。

**建設リサイクル報告様式**

2.建設資材利用実施

分類	小分類 コード*5	規格	主な利用用途 コード*6	利用量(A) 小数点第三位まで	再生資材の名称 コード*7	再生資材利用量(B) 小数点第三位まで	再生資材の供給元施設、工事等の名称	供給元 種類 コード*8
土砂	1-種			100.000 積のm <sup>3</sup>	1-種	100.000 積のm <sup>3</sup>	A	現場内

2.建設副産物搬出実施

建設副産物の種類	①発生量 (掘削等) =㊸+㊹+㊺ 小数点第三位まで	現場内利用・減量				
		現場内利用		減量化		
場外搬出時の性状		用途 コード*9 *10	②利用量 小数点第三位まで	うち現場内 改良分 小数点第三位まで	減量法 コード*11 *12	③減量化量 小数点第三位まで
第一種 建設発生土	0.000 地山m <sup>3</sup>		地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>		
第二種 建設発生土	0.000 地山m <sup>3</sup>		地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>		

資材利用に現場内がありますが、副産物の搬出に現場内利用の記載がありません。現場内利用は、資材利用と副産物の搬出ともに記入が必要です。

修正をお願いします

**(22) 新材 (必須)**

「(22) 新材」エラーは、建設資材の小分類コードで新材に限定される場合、再生資材の利用状況の欄（「再生資材の供給元施設、工事等の名称」、「供給元種類コード」、「施工条件内容コード」、「供給元住所コード」、「供給元住所地先」、「再生資材コード」、「再生資材利用量」）にデータが存在することを示している。新材エラーとなるのは以下のとおりですので、修正してください。

- 1) 建設資材「コンクリート」で小分類が「生コン（バージン骨材）」、「無筋コンクリート二次製品（バージン骨材）」の場合
- 2) 建設資材「コンクリート及び鉄」で小分類が「有筋コンクリート二次製品（バージン骨材）」の場合
- 3) 建設資材「土砂」で小分類が「山砂、山土などの新材（採取土、購入土）」の場合
- 4) 建設資材「砕石」で小分類が「ぐり石、割ぐり石、自然石」の場合

例：1. 生コン（バージン骨材）を利用しているにもかかわらず、再生材にも記入がある場合

詳細表示

発生箇所	入力値	エラー内容 (※は必須)	コメント
資材利用 コンクリート 1枚目・1行目 再生資材利用量	10.000	※(22)新材	新材の場合は入力できません。確認し修正してください。
資材利用 コンクリート 1枚目・1行目 供給元種類コード	6.他	※(22)新材	新材の場合は入力できません。確認し修正してください。
資材利用 コンクリート 1枚目・1行目 供給元住所コード	13101	※(22)新材	新材の場合は入力できません。確認し修正してください。

建設リサイクル報告様式

建設資材 (新材を含む全体の利用状況)				左記のうち、再生資材の利用状況 (再生資材を利用した場合に記入して下さい)			
分類	小分類	規格	主な利用用途 コード*5	利用量(A) 小数点第三位まで	再生資材の名称 コード*7	再生資材利用量(B) 小数点第三位まで	再生資材の供給元施設、工事等の名称
コンクリート	生1(新)			10.000 トン		10.000 トン	
	合計			10.000 トン		10.000 トン	

新材利用の場合、入力しないでください。

確認し必要に応じて修正  
してください

#### (24) 法人番号（警告：内容確認）

「法人番号」が空白、または桁数が少ないことを示していますので、必要に応じて修正してください。

※ 「法人番号」とは、国税庁が、平成 25 年 5 月 24 日に成立(平成 25 年 5 月 31 日公布)した「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」に基づき、法人に対して法人番号を指定し、対象の法人へ通知した後、商号又は名称、本店又は主たる事務所の所在地とともに公表している番号を指します。以下の国税庁法人番号公表サイトにて、法人名、住所等から検索することができます（法人番号を取得していない個人事業者等は記入不要です）。

国税庁法人番号公表サイト：<http://www.houjin-bangou.nta.go.jp/>

例：法人番号が空白の場合

#### 詳細表示

発生箇所	入力値	エラー内容（※は必須）	コメント
工事概要 法人番号		(24)入力規則	法人番号は13桁で入力してください。

#### 建設リサイクル報告様式

法人番号	
------	--

法人番号を記入してください。

確認し必要に応じて修正  
してください

(30) 再生資源利用率 (警告：内容確認)

「再生資源利用率」は、各品目の利用量に対する再生資材利用量が一定割合 (A%) 未満であることを示しています。

小分類コードの選択ミスや再生資材利用量に記入漏れがないか確認し、必要に応じて修正してください。

$$\text{再生資源利用率 (再生資材利用量} \div \text{利用量)} \leq A\%$$

建設資材	一定割合 A%
土砂	70%
砕石	70%
アスファルト合材	80%
コンクリート	20%
コンクリート及び鉄からなる建設資材	20%
木材	20%

※一定割合 A%は H24 センサス集計結果の平均値

例：土砂の現場内利用が 100m<sup>3</sup>、採取土が 500m<sup>3</sup> の場合

詳細表示

発生箇所	入力値	エラー内容 (※は必須)	コメント
資材利用 土砂 再生資源利用率	100.000/600.000 (30)再生資源利用率		再生資材利用量に入力もれがないか確認してください。正しければそのまま結構です。

建設リサイクル報告様式

建設資材 (新材を含む全体の利用状況)				左記のうち、再生資材の利用状況 (再生資材を利用した場合に記入して下さい)	
分類	小分類 コード*5	規格	主な利用用途 コード*6	利用量(A) 小数点第三位まで	再生資材の名称 再生資材利用量(B) コード*7
土砂	1-1種 10採取土		1 砕石 2 路床	100.000 積めm <sup>3</sup> 500.000 積めm <sup>3</sup>	1-1種
			計	600.000 積めm <sup>3</sup>	

再生資材利用量に記入漏れはありませんか。

施工案件 内容 コード*9	再生資材の供給元場所住所	住所コード *4	再生資源 利用率 B/A×100
1 指示あり	東京都千代田区	13101	100 %
			0 %
			17 %

小分類コードの選択は正しいですか。



確認し必要に応じて修正  
してください

(31) 再生資源利用促進率（警告：内容確認）

「再生資源利用促進率」は、各品目の発生量に対する現場内利用量、現場内減量化量、再生資源利用促進量の合計が一定割合（B%）未満であることを示しています。

搬出先種類コードの選択ミスや現場外搬出量に記入間違いがないか確認し、必要に応じて修正してください。

$$\text{再生資源利用促進率} = (\text{現場内利用量} + \text{現場内減量化量} + \text{再生資源利用促進量}) \div \text{発生量} \leq B\%$$

建設副産物	一定割合 B%
建設発生土	50%
コンクリート塊	90%
アスファルト・コンクリート塊	90%
建設発生木材A	80%
建設汚泥	80%
建設混合廃棄物	70%
金属くず	90%
廃プラスチック類	70%
紙くず	80%
建設発生木材B	80%
分別された建設廃棄物	70%
廃石膏ボード	70%
廃塩化ビニル管・継手	70%

※一定割合 B%は H24 センサス集計結果の平均値

※特定建設資材廃棄物（コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木 A（柱や梁等））を工事現場から直接最終処分場に搬出することは、建設リサイクル法違反となる可能性があります。確認をお願いいたします。

例：コンクリート塊発生量 3.5 トンのうち、現場内利用が 0.5 トン、最終処分場搬出が 3 トンの場合

詳細表示

発生箇所	入力値	エラー内容（※は必須）	コメント
副産物搬出 コンクリート塊 再生資源利用促進率	1.500/3.500	(31)再生資源利用促進率	搬出先の種類コードに誤りがないか確認してください。正しければそのまま結構です。

建設リサイクル報告様式

建設副産物の種類	①発生量 (概算等) =㊸+㊹+㊺ 小数点第三位まで	現場内利用・減量			現場外搬出について				再生資源利用促進率 =㊸+㊹+㊺ ① (%)		
		現場内利用 用途コード *10	②利用量 うち現場内改良分 小数点第三位まで	減量化 減量法コード *11	③減量化量 小数点第三位まで	搬出先名称 2ヶ所まで記入できます。3ヶ所以上にわたる時は、用紙を換えて下さい。		搬出先場所住所		住所コード *4	
コンクリート塊	3.500 トン		0.500 トン			搬出先1 :00 搬出先2 :	民間 指定処分	さいたま市	11100		
						距離 35.0 km 3.0 km	搬出先の種類 コード *13 3 内陸処	④現場外搬出量 小数点第三位まで 3.000 トン	うち現場内改良分 小数点第三位まで 0 トン	⑤再生資源利用促進量 0 トン	14 %

搬出先の種類は正しいですか。

搬出量は正しいですか。